



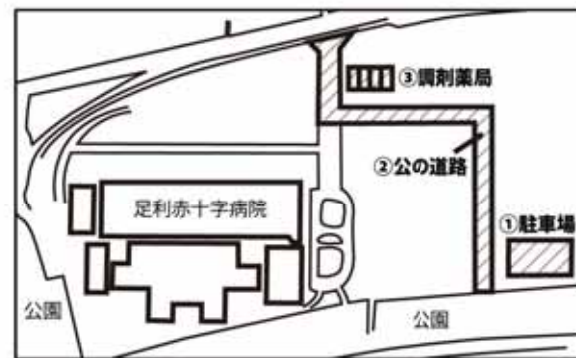
『職員の人件費について』公務員の場合、1人あたりの人件費は年間750万円になります。足利市では職員数を83人減らしたことで、750万円×83人で6億2000万円の費用削減に繋がりました。現在、日本全体の人口が減っているわけですから、公務員数を減らしていくという考え方は今後も避けて通れないことだと思います。

また、公務員の給与は国が定めた人事院勧告に基づいて決まっています。このことについても、そろそろ見直していかなければならないと思っています。現在、どこの自治体においても責任が有る立場の人の給与が安すぎ、責任が無い立場の人の給与が高すぎるといふ弊害が発生しています。たとえ同年代の職員でも、部長クラスは1,000万円を超える年収があって良いと思いますし、逆に平職員は今のレベルを大幅に下回る給与体系でなければおかしいと思います。その結果、総人件費を下げるということがあっても良いと思いますし、そのくらい緊張感がなければ職員は頑張れません。

『足利市独自の取り組みについて』足利市では、足利赤十字病院の隣接地で営業している調剤薬局から家賃収入を得るといふ独自の取り組みを行っています。全国の市立病院を持っている自治体から非常に注目をいただいています。

足利赤十字病院は、平成23年7月1日に現在の場所に移転しましたが、当初の予定では病院近くに調剤薬局を建設する予定はありませんでした。それでは患者さんは困ると考え、足利市は調剤薬局をつくるための算段を始めました。調剤薬局は足利赤十字病院の敷地内につくりたいと考えておりましたが、医療機関と調剤薬局は、公の道路で分離されていなければならない、当時の状態では調剤薬局を建設することができませんでした。そこで、その状況を逆手にとり、敷地内の道路をどうすれば公の道路に認定出来るか知恵を出し合いました。そこで、病院に隣接する公園を使用する人のための駐車場を新設し、その公の駐車場へのアクセス道路を公の道路といたしました。

足利赤十字病院の移転に伴う  
調剤薬局の建設過程



- ①公園利用者のための駐車場を新設
- ②敷地内の道路を公の道路として認定
- ③病院の隣接地に調剤薬局を建設

このようにして、調剤薬局が4店舗入居できる施設が生み出され、現在では1カ月あたり15,000人もの足利赤十字病院を受診されている患者さんが利用しています。さらに、ここでも入札改革の一環として、4店舗の競争入札を行っています。その結果、4店舗の家賃収入で年間1億2200万円が足利市に入ることになりました。足利市は市税収入が190億円くらいなので、1億2200万円の税外収入があるということは本当にありがたいことです。

『利他の精神を尊べる社会』は、天台宗の「忘己利他」から採らせていただきました。「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」公務員として奉職をしたからには人一倍このような意識が強くなければいけません。職員には利他の精神をもう一度自分なりに省みるように伝えました。

足利市には足利学校という日本最古の大学がありますが、そこには中世から近世にかけて脈々と教えられてきた論語があります。論語はまさに利他の精神というものを尊ぶ上で非常に有効なツールです。また、情操教育にも有効に使えるものだと私は思っています。例えば孔子の弟子の子貢が「一言にして以て終身これを行うべき者ありや（人生において大事なことを一言でいえばそれは何ですか）」と孔子に聞きます。「其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ（それは「恕」まさに思いやりであり、自分にして欲しくないことを相手にするな。）」と孔子は答えています。

近年、足利学校参観者倍増計画という方針を出し、まちづくりの一つとして続けています。足利学校の参観者数は年間17万人。しかし、それではさみしい。足利学校の魅力をもっと発信して、中心市街地に訪れる方を増やすことで、相乗効果を生み出したいと考えています。

また、まちづくりは人づくりということにもなります。人づくりをするということも加味して、足利学校を論語のまちとして、論語の素読、論語の研究など、論語を切り口に様々な形で活用したいと考えています。これからの足利学校は、これまで以上に充実させていきますので、ぜひ足利学校にお越し下さい。

最後に成功哲学と論語について申し上げたいと思います。成功哲学とは、アメリカのナポレオン・ヒルが500人の成功プロセスを1つにまとめたものです。その成功哲学と論語には非常に共通点があります。例えば、ヒルは成功哲学で「本気で成功したいと願うなら、手を抜くことはやめることだ」と言っています。一方、孔子は論語で「力足らざる者は中道にして癡す。今汝は限れり（努力をしない者は途中で終わってしまう。汝は今そんな状況だ。）」と言っており、裏を返せばヒルの言葉になるわけです。つまり、人が成功する上で、王道というのは古今東西どこに行っても変わらないということです。論語の中には、成功するためのノウハウがたくさん詰まっています。だからこそ、足利では論語を通じて子どもたちの情操教育にも繋がりたいし、足利市の職員の意識を高める手段にも使っていきたいと思っています。



史跡足利学校